

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名

AIAI NURSERY 西荻北

1. 活動のテーマ

<テーマ>

生物に親しむ（3～5歳児）

<テーマの設定理由>

4月園庭で虫探しに夢中になる姿がみられた。同時に4歳児の保護者がカブトムシの幼虫を持ってきてくれた。その際に子ども達が自分達でお世話をしたいという意志を示し、お世話を通して命の大切さについて考えを深める事となった。

2. 活動スケジュール

2024年4月～虫や植物について知る。

2024年6月～ カブトムシを飼育、観察する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

図鑑、カブトムシ、飼育セット（虫かご、土、餌）、カブトムシの写真を貼る（→名づけ後は名前を書く）、シール、色鉛筆、画用紙 50音表、ドリル（読字書字習得の為）

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・図鑑や絵本などを通して虫や植物について知る。
- ・カブトムシを飼育、観察する。その特徴から、名前を付け、平仮名、カタカナを使って紹介カードを書く。
- ・サークルタイムで「何を食べるのか」「毎日するお世話は何か」などの飼育方法について他児と話し合ったり、疑問を共有したりすることで考えを深める。
- ・カブトムシの人気投票。シールの数を数えたり、数字を書いたりして数的感覚に触れる。
- ・季節の移り変わりや命の繋がりについて気づき、調べた事を、絵や文字で書いて掲示してみる。周囲の人に説明してみる。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・図鑑や絵本を見ながら「この虫知ってるよ」「採ったことあるよ」などと知識・経験を他児と共有していた。
- ・カブトムシの飼育について、「私がお世話する!」「あまり触ると弱っちゃうから、触らないで見るだけにしよう」など、子ども達が生き物を敬って飼育にあたっていた。
- ・カブトムシの人気投票では、シールの数え方を教え合う姿が見られた。保育者も必要に応じて手助けし、無事投票結果を出す事ができ、喜んでいた。
- ・カブトムシや、図鑑で知った、または園庭で見つけた動植物を絵に描き、名前を書き、また、他児や保育者、保護者の方々に楽しそうに説明していた。
- ・9月下旬子ども達から「動かなくなってきた…」「園庭のどこにお墓をつくる?」との発言が聞かれ生命について考える姿がみられた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・カブトムシの飼育を通して、あまり生物に興味のなかった子も、園庭や道端にいる虫に興味を示し始め、形や動きの不思議さなどに驚く姿があった。
- ・保護者の方からも餌の提供、休日のお世話などご協力頂き、子ども達からも感謝の声が聞かれ、生き物を育てる事は他の人の協力も必要であることが理解できたと感じる。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名

AIAI NURSERY 西荻北

1. 活動のテーマ

<テーマ>

様々な国に触れる（4・5歳児）

<テーマの設定理由>

進級して英語教材に触れはじめたと同時に、家庭でオリンピックの話題に触れた子ども達が、日本の旗に興味を持ち、コピー用紙に赤いマジックで円を描き、割りばしを付けて振って応援ごっこをしている姿があった。その姿から、様々な国の「言語・文化・食べ物」等の違いを比較し探究する事となった。

2. 活動スケジュール

2024年4月～ 英語の映像、歌、世界地図、国旗や世界のお祭りの絵本を読み、言語や文化の違いに気づく。

2024年9月～ 10月下旬にお祭り「ワールドフェスティバル」を企画。グループごとに準備を進め、当日の運営を子ども達自身で行う。

2024年11月～ 行事ごとにサークルタイムで、日本の伝統行事なのか、他国でも行われる行事なのか、対話しながら、調べたり、比較してみる。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

50音表 ドリル(読字書字習得の為) 英語教材(映像 ドリル) 世界地図、国旗・お祭りの絵本、画用紙・折り紙・段ボール・絵具・両面テープ・糊・マジック・輪ゴム・クレヨン・はさみ、段ボールカッター（世界のお祭りの製作に使用）、LEDライト

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・英語の映像や絵本に親しむ。言語の違いに気づく。
- ・世界地図と国旗の絵本をもとに、異文化について知り、考えるきっかけを作る。
- ・好きな国旗を製作し保育室内に掲示し、他児と気づきを共有する。
- ・お祭りのテーマを「ワールドフェスティバル」に設定し、メキシコ、ポルトガル、タイなどのコーナーを企画、運営する。
- ・食育活動で、世界の料理に親しむ。
- ・お正月・節分・ひな祭りといった日本の伝統行事との比較を試みる。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・世界地図や国旗の絵本を見ながら、自分の好きなデザインや色の国旗を見つけて製作したが、「日本とバングラデシュ似ているね」「赤を使った国は日本の他にベトナムもあるね」など、気づきを共有していた。

・世界のお祭りの絵本を見て、「タイのランタン祭りはきれいだね」「ポルトガルの傘まつりをやってみたい」など興味を持って「ワールドフェスティバル」への意欲が湧いていた。保育者は、1人1人が挑戦してみたい製作を話し合いながらグループ分けを行い、その後は子ども達が主体となって、「衣装はこれにしよう」「どんな色にしたらいいかな」など話し合い、準備を進めることができた。

・食育活動では、日本のあんことイギリスのジャムを使ったクラッカーサンドを作ったが、お正月・節分・ひな祭りといった日本の伝統行事食について保育者が絵本を見せるなどして説明しながら、子ども達の知っている世界の料理について、サークルタイムなどで出し合った。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・国旗づくりでは、1人で何枚もの国旗を描き、他児と比較しながら、デザインや色の違いを話す様子が見られ、世界の様々な国に対する興味が高まっていった。

・秋祭り「ワールドフェスティバル」では、お祭りを再現しようと、各グループで絵本などで調べて、どんな素材で何を作るかを話し合って決めるなど、積極的な姿勢が見られた。

・フェスティバル当日も、各ブースで大きな声を出してお客さんを呼び込むなど、役割を果たそうと意欲的な姿が見られた。

・ランタン→光と影 英語→言語→謎解きクイズ 等 あらたな探究テーマに繋がる発想もみられた。次年度に深めて生きたい。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名

AIAI NURSERY 西荻北

1. 活動のテーマ

<テーマ>

野菜の栽培（3・4・5歳児）

<テーマの設定理由>

毎月行っている食育活動の中で野菜に触れた事をきっかけに、季節の野菜を図鑑で調べ、栽培し、野菜への興味関心を深める事とした。

2. 活動スケジュール

2024年5月～ ・野菜を図鑑で調べ、育てたい野菜を話し合い、クラスで野菜を栽培する。栽培しながら観察し、気づきを友達と共有する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

図鑑、プランター、培養土、苗、支柱、画用紙、クレヨン、色鉛筆
50音表 ドリル((読字書字習得の為)

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・野菜を図鑑で調べ、夏野菜と春野菜を分類し、保育室内に掲示することで旬の野菜について知る。
- ・サークルタイムで育てたい野菜を話し合い、クラスで野菜を栽培する。お当番を中心に野菜を育てる。
- ・収穫した野菜を観察したり、絵にかいたり、その説明を書いたりすることで食に関心を寄せる。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・保育者が「旬」の意味を説明し、夏野菜と春野菜を分類しようと声をかけると、図鑑を見ながら、子ども達どうして、「夏に畑でトマトを見たよ」など自分の持っている知識を共有していた。
- ・苗を植える時には「早く大きくならないかな」「水やりは当番でやるよ」など、意欲的に活動する姿が見られた。収穫すると「やったー」と喜ぶ姿や「給食はがんばって食べてみようかな」と食に対する関心、挑戦する気持ちも芽生えていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・水やりは当番で行ったが、自分のグループの当番はいつかなと楽しみにする様子が見られ、お互いに野菜栽培を話題にする姿もあった。
- ・乳児クラスが、プランターの土や苗を触って弱らせてしてしまう懸念があったが、園庭に出た際には保育者が0歳～2歳児に声をかけたり、また3～5歳児自らが「野菜を育ててるんだよ」「触らないでね」と話をする姿もあり、野菜を育て、園全体で収穫を楽しみにする雰囲気を作る事ができた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名

AIAI NURSERY 西荻北

1. 活動のテーマ

<テーマ>

お手紙交換

<テーマの設定理由>

お友達同士で折り紙交換をしていたが、そのうち名前を書いて渡すようになり、お手紙を書きたいという気持ちに発展していき、文字に対する興味関心をさらに深めるため。

2. 活動スケジュール

2024年4月～ ひらがな50音表を見て、名前を書く。他児にお手紙を書いてみる。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

50音表 ドリル((読字書字習得の為) 鉛筆、紙、折り紙、画用紙、はさみ

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・自分の名前をひらがなで書くことを楽しむ。他児や家族の名前にも興味を持ち、ひらがな表を用いて書いてみようとする。
- ・他児に向けてお手紙を書き、交換することを楽しむ。
- ・「ポストも必要だね」という声から、子ども同士でアイデアを出し合い、遊びを発展させる。
- ・子ども達が郵便局で年賀状を購入。家族宛に年賀状を書いてみる。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・あらゆる場面で、言葉や文字は誰かに何かを伝える手段であり、その気持ちが重要である事を保育者から伝え続け、子ども達が、書ける、書けないといった結果にこだわりすぎないように、働き掛けた。
- ・「書けたよ!」と嬉しそうにお友達や保育者に見せて、家族の名前も書いてみようとする姿があった。
- ・手紙交換では「ピンクで書いたよ」「リボン付けたよ」とどのように工夫すれば、渡す相手が喜んでくれるかと、考えながら手紙を書く姿が見られた。
- ・手紙交換をしていくうちに、ポストや切手も必要だね、という声があがり、保育者と一緒に製作を行った。
- ・平行して、英語教材や他の国の言語にも触れていた為、「ABCって書いたよ、〇〇くんのお家の言葉?」等質問する子どももいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・ひらがなが読めない・書けない子もおり習熟度が異なっていたため、手紙交換ができない子もいるのではと心配したが、50音表を見て真似てみようとしたり、子ども達どうして教え合ったりする姿があり、良かった。
- ・活動を通じて、文字に対する興味関心が高まり、絵本の文字を読むなどの姿が見られるようになった。
- ・他のテーマ(様々な国に触れる)との気づきが繋がる子どももあり、英語をはじめ、多言語についても今後、深めていけるよう、教材を用意していきたい。
- ・郵便局に足を運び、流通の仕組みや職業意識にも繋げていけるのではないかと感じた。